



道守かごしま通信



平成22年12月 第1号

師走のたより (薩摩川内都インター)

道守会員である「荷馬車組合」により、薩摩川内市の国道3号線沿いに恒例の門松が設置されています。

来年の干支の【うさぎの餅つき】をモチーフとしたデザイン。高さ4m、直径は1.2m門松の隣で、うさぎが餅つき。周囲には「川内大綱引」の綱を再利用した飾りを設置。「うさぎ」の作成については、例年どおり都自治会の綱引きに利用した綱を再利用。夜間はライトアップもされています。

帰省される人を暖かく迎えることと、交通事故防止等の願いも込めて設置。平成23年も、皆様が明るく迎えられるように祈っております。なお、これらについては、来年1月10日頃まで設置の予定です。



先人の足取りを感じながら峠道を歩く参加者ら
—薩摩川内市の旧薩摩街道



先人へ思いはせ古道を行く

「第3回薩摩街道歴史ふれあいウォーク」が11月28日、出水市や薩摩川内市、熊本県などで開かれた。両とができない先人の足取りをくみし県から約530人が参加。熊本と鹿兒島をめぐりながら歩いた。

第3回薩摩街道歴史ふれあいウォーク開催

11月28日、鹿兒島・熊本両県から約530人が参加して、5コースに分かれて県境越えに挑戦したり、偉人たちが残した足跡をたどりながら歩いて、当時の歴史や魅力を堪能しました。

薩摩街道保存会の一行は、「川内川を渡る一西郷お狩り場コース(約17km)」を堪能。出発点の薩摩川内市西方海水浴場から一条坂、耳切坂を経て、ゴールの川内川の渡唐口までを5～6時間かけて踏破しました。

薩摩街道保存会では、鹿兒島市西田橋から県境の水俣市袋(110km)を踏破したのは50人。今春、熊本の三太郎峠(津奈木太郎、佐敷太郎、赤松太郎)を踏破しました。来春は、日奈久～熊本城(50km・3回に分けて)に向かいます。

～薩摩街道保存会より～